

第3章ピンチへの対処「1. FPとの1対1」

この章では試合でよくあるピンチのシーンへの対処法を学びます。共通して言えることは、フットサルでは相手が1人多い状態は「普通の」光景であり、この状況をお互いにかに多くつくるのが大きく左右するスポーツであることです。特にこの「FPとの1対1」はゴレイロの腕の見せ所です。サッカーでは決定的なピンチでも、あなたがこれを高確率で防ぐことでチームは勢いに乗り、セーブ後の素早い攻守の切り替えで「攻撃の起点」となることもできます。結果的にそれがチームの勝利へとつながっていくことでしょう。まずはFPとの1対1から始めましょう。

【其の1】スタートは3m～4mの位置で。

ゴールライン上にポジショニングしてはいけないのはゴレイロの鉄則ですが、最初から6mのエアギリギリでポジショニングすると、ループシュートを決められることもありますし、何より手が使えらる範囲からこれ以上前に出ることができません。中間地点の3m位の位置で、相手が自分の間合いに入ってくるのを待つのが基本形となります（写真①）。このスタートポジションを3mにするか4mにするかの基準は、「ループシュートを打たれても戻れるかどうか」とし、各自の身体能力にあわせて調整して下さい。

写真①



～守護神はチームの主軸にして攻撃の起点
日本初の本格的ビギナー向けGKクリニック～
ゴレプロ ～Goleiro Professional Clinic～

【其の2】「構え」は様々なタイミングでの反応を意識。

FPはゴレイロの間合いやタイミングを外しに来ます。股下や肩口をシュートレンジの手前で狙ったり、トキックを巧みに使ったり…。股下を狭くし低いボールは足で防ぐ意識を持ちつつ、上のボールには手を少し上げた状態で、どのタイミングのシュートにも瞬時に対応できるようにしましょう。

【其の3】一気に前に出て間合いを詰める！

FPはゴレイロが静止していると落ち着いてゴールを狙いやすくなります。【其の2】で、3～4mの位置でポジショニングしたのは、ここで2～3mを一気に詰めるためです。ゴレイロのFPとの最適な間合いを意識し、一気に詰め、相手が蹴る瞬間にはゴールラインギリギリにいるのが理想です。

（この時、相手との距離が3m程度の「中途半端なポジショニング」だと、顔面にボールが直撃することがあります。よく顔に当たる方は、この距離を意識してみると良いと思います。）

また、FPがフェイントで抜きに来た場合は、なるべくサイド側の角度のない方に追いやるようにします。同時にそれが相手の利き足と逆側だと理想的です。

写真②（相手を角度のないところに追いやった例）



【其の4】寝ない！

特に1対1のセーブで簡単に寝てしまったり、不用意にボールに飛びこんでしまうゴレイロは、FPにとっては抜きやすいタイプとなります。もちろん、フェイントで大きくボールを横に動かされた時は手から飛び込まざるを得ない場合がありますが、基本は「寝ない」のスタンスでプレーしましょう。

写真③（悪い例：簡単にボールに飛び込み、かわされてしまう）



～守護神はチームの主軸にして攻撃の起点
日本初の本格的ビギナー向けGKクリニック～
ゴレプロ ～Goleiro Professional Clinic～